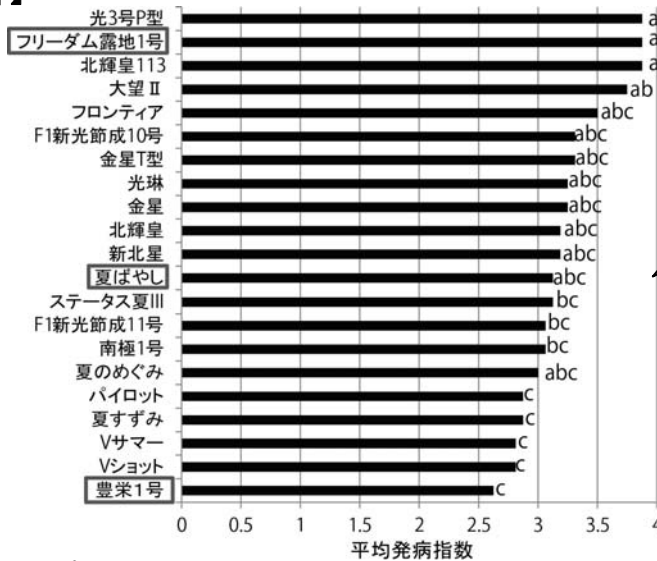


キュウリ黒星病に対する感受性（かかり易さ）の品種間差異

【1 成果の要約】

- (1) 現在県内主要産地で栽培されている品種の中に、実用的なレベルでキュウリ黒星病抵抗性が強いものはありません（図1、図2）。
- (2) 今回、黒星病の感受性（かかり易さ）を検討した品種のうち、‘フリーダム露地1号’、‘北輝皇113’、‘大望II’等は、本病に弱い品種と推定されます（図1）。
- (3) 慣行台木の‘パワーZ2’、ブルーム台木の‘黒ダネ南瓜’のいずれに接ぎ木しても、本病の発生にはほとんど影響しません。

【2 成果の内容】



平均発病指数が大きいほど黒星病の感受性が高い（かかり易い）

図1 ポット試験におけるキュウリ品種別の黒星病感受性（茎葉）

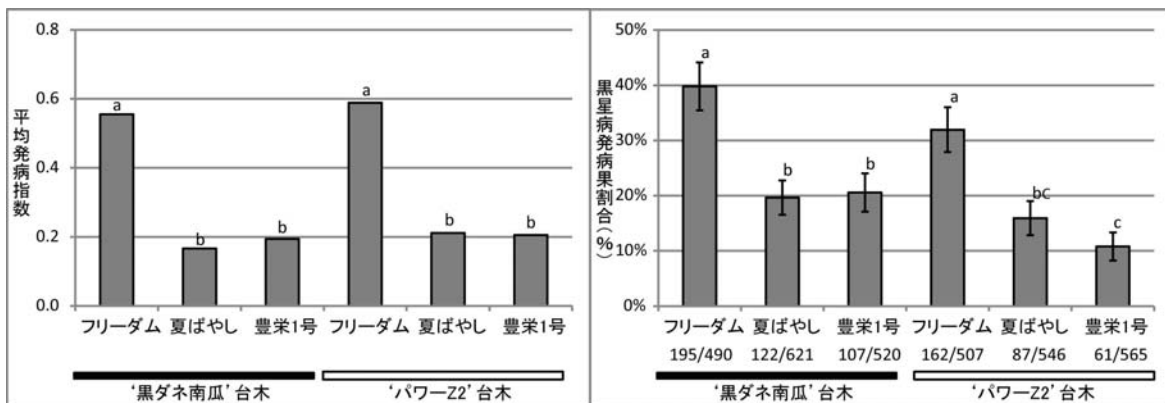


図2 圃場試験における穂木・台木品種別の黒星病感受性比較（左：葉，右：果実）

【3 留意事項】

- (1) 図1で本病感受性を検討した‘フリーダム露地1号’、‘夏ばやし’、‘豊栄1号’以外の品種については圃場試験における感受性を検討していません。
- (2) 図2の2012年の圃場試験は、夏季高温・少雨のため、黒星病菌を3回接種するなど、接種圧が高い条件での結果です。
- (3) 本病の薬剤防除については、平成22年度岩手県農業研究センター試験研究成果書（指導）「キュウリ黒星病防除薬剤の評価」を参照してください。